

仕様書No.R2702-SP01

製品仕様書

製品名 OAフロアコンセント

製品図番 R2702

1. 適用範囲

本仕様書は、大和電器（株）において製造されるOAフロアコンセント（以後コンセントという）R2702に対して適用する。

2. 関連規格

電気用品安全法 △ : 別表第4-1, 4-6

日本工業規格 (JIS) : C8303, C8306

3. 形状及び材質

コンセントの形状及び材質は、添付図面による。

4. 定格、極数、極配置及び適合性検査合格書番号 △

4.1 定格、極数、極配置

定格: 15A 125V, 極数: 2極(接地形), 極配置: (.)

4.2 適合性検査合格書番号 △

△ JET1141-43002-1010

5. 外観

5.1 性能を害するような、または外観上見苦しいバリ、ヒケ、カケ、変形等のこと。

5.2 外観上見苦しいキズ、汚れ、色むら等のこと。

6. 表示

表示は添付図面による。

7. 構造

7.1 コンセントは、抜差しが容易な形状で、電気的接触が確実であること。

7.2 差込プラグを差込み、右方向に回転させることにより、差込プラグが容易に抜けなくなる。

7.3 各部の絶縁距離（空間、沿面）は、通常の使用状態で表1の値を満足すること。

表1 各部の絶縁距離（空間、沿面）

極性が異なる充電部相互間	1.5mm以上
充電部とアースする恐れのある非充電金属部 又は人が触れる恐れのある非金属部	1.5mm以上

7.4 電線の接続方法は、ねじなし端子式（再用形）による。

7.5 ねじなし端子部を定格20A 125Vとする。

7.6 電線接続部は、送り端子付。

7.7 接続する電線は、Φ1.6、Φ2.0の軟銅線とする。

7.8 電線をはずす場合は、電線はずし穴をJIS B4609に規定されている呼び6X100
又はそれ以下のねじ回しで押す。

8. 性能

項目	特 性		試験方法
8.1 引張強度	100N (10.2kgf) の荷重を1分間加えたとき力ヶ、ワレ、ヒビ等がないと共に使用上有害な異常のないこと。		JIS C8303の7.20
8.2 温 度 上 昇	刃受部	15Aの電流を通電したとき、開閉試験の前後で刃受部の温度上昇は、下記の値を満足すること。 初期値 : 35K (35°C) 以下 開閉後 : 40K (40°C) 以下	JIS C8306の4
	ねじなし端子部	初期値 : 35K (35°C) 以下	
8.3 開閉性能	下記の条件で開閉試験を行なったとき、使用上有害な異常がないと共に 8.1, 8.2, 8.4, 8.5 を満足すること。 22.5A 125V (功率約1.0), 6~10回/分にて 100回		JIS C8306の10.6
8.4 絶縁抵抗	DC 500V 絶縁抵抗計により異極間及び充電部と非充電金属部間を測定したとき、開閉試験の前後で 100MΩ 以上。 但し、製造工程においては AC 1500V にて 1 秒間。	JIS C8306の7	
8.5 耐電圧	AC 1250V を異極間及び充電部と非充電金属部間に 1 分間加えたとき、開閉試験の前後で異常のこと。	JIS C8306の8	
8.6 耐熱	80±3°C にて 7 時間放置後、使用上有害な異常のこと。	JIS C8306の14	
8.7 外郭押圧強度	600N (61.2kgf) の荷重を 1 分間加えたとき、力ヶ、ワレ、ヒビ等がないと共に使用上有害な異常のこと。	JIS C8306の13.5.2	
8.8 ネ ジ な し 端 子 部 性 能	引張強度	電線の脱出、端子部破損等使用上有害な異常がにこと。 引張荷重: 100N (10.2kgf) にて 1 分間	JIS C8306の13.1.2.(1)
	曲げ強度	電線の脱出、端子部破損等使用上有害な異常がにこと。 曲げ角度: 45°	JIS C8306の13.1.2.(1)
	ヒートサイクル	25サイクルと 125サイクルにおける温度上昇の差は 8K (8°C) 以下。	JIS C8306の16

9. 使用条件

9.1 使用場所

住宅や事務所等の屋内で使用し、過酷な取扱いを受けるような作業現場、直接水のかかる場所、屋外での使用は不可。

9.2 使用温度範囲

-10°C ~ 40°C

10. その他

10.1 関連する諸性能に不具合が生じた場合は、双方の話し合いによりすみやかに解決する。

10.2 本仕様書に記載されていない事項については、双方の話し合いにより決定する。

安全上のご注意

(施工上のご注意)

コンセントをより正しく安全に使用いただきくため、特に下記の項目を需要家にご注意ください。

⚠ 警告

- 1) 定格電圧・定格電流を超えた条件で施工しないでください。
発熱して焼損や火災の原因となります。
- 2) 電線の端子接続は、適合電線をストリップゲージに合せて被覆を剥き、奥まで確実に差し込んでください。差し込み不十分な場合、発熱して焼損や火災の原因となります。

⚠ 注意

- 1) 浴室など水のかかる場所及び高温、低温、多湿、粉塵の多い場所に取り付けないでください。
発熱して焼損や火災の原因となります。
- 2) より線を半田あげして接続しないでください。発熱して焼損や火災の原因となります。
- 3) 曲がった電線は接続しないでください。発熱して焼損や火災の原因となります。
- 4) 硫化水素ガスやアンモニアガスなどの多い場所には取り付けないでください。
発煙や発火の原因となります。
- 5) コンクリートやしつくいなどの半乾燥状態では施工しないでください。
発煙や発火の原因となります。
- 6) 食用油などが付着し易い場所には取り付けないでください。発煙や発火の原因となります。